事業内容：

「海の食とビーチアクティビティ」

　１．実施日　　: 平成２８年８月７日(日)

　２．実施場所 : 大蔵海岸(明石市大蔵海岸１丁目)

　３．参加者　　　　小学生１６０名、保護者１４０名　計約３００名

　４．内　容

①魚のつかみ取り体験

②魚のさばき方教室とバーベキュー

③ビーチサッカークリニック

1.事業目標の達成状況：

【申請時の目標】

淡路市、明石市の小学５～６年生150名の募集とその保護者100名の計250名の参加者が、明石海峡の海岸で相互交流し、海に面する都市部と地方部の住民がつながるとともに、主に次世代を担う子ども達を中心として、海岸環境や環境保全の取り組みを学び、海でとれる資源を食することで海洋資源の大切さを知る。

【目標の達成状況】

普段体験することができない魅力的な事業内容が功を奏し、予定人数を大きく上回る小学生約160名と保護者約140名、計300名もの参加者により事業を実施することができた。

また、魚のつかみ取り体験やビーチサッカークリニックなどを通して、海や魚、砂浜などに触れてもらったことで、海岸環境への興味や好奇心が高まり、さらには環境美化意識の向上に大きくつながった。特に、自分でつかみ取りした魚を自分でさばき、食したことで、海や魚をより身近に感じ海洋資源の大切さを学んでもらうことができた。

2.事業実施によって得られた成果：

【海や魚への関心・好奇心の向上】

多くのこども達は、生きている魚を触ったことがなかったため、魚をつかまえることを怖がっていた。しかし、つかみ取り体験を通して、魚をつかまえては逃げられることを繰り返しているうちに、最後には臆することなく笑顔で魚をつかめるようになった。結果、海や魚へのさらなる関心や好奇心の向上につながった。

【ビーチアクティビティスポーツの振興】

靴を履いて公園でするサッカーとは違い、裸足になって砂浜でするビーチサッカーの楽しさを知ってもらったことで、砂浜や海岸で行うスポーツに対し興味や関心を抱いてもらうとともに、海岸環境の大切さに気づいてもらうことができた。

3.成功したこととその要因

【非日常の体験ができたこと】

（要因）日常生活では、生きている魚を見ることはあっても、実際に触れ、つかまえることはなかなかありません。今回のイベントでは、こども達が、魚のつかみ取り体験や魚のさばき方教室、ビーチサッカーなど目で見るだけではなく、実際に手や身体を動かして体験し、好奇心が駆り立てられたことが成功につながった。また、魚のつかみ取りは、簡易な手作り網のみで対応可能であることから、鮮魚が入手できるなら、全国各地の海岸で実施可能であり汎用性が高いイベントと言える。

